

戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）
光・量子を活用した Society5.0 実現化技術 推進委員会（第1回）
議事要旨

1．日時：平成30年7月11日（水） 10：30～11：30

2．場所：中央合同庁舎4号館4階 共用第2特別会議室

3．出席者：（敬称略）

<議長/プログラムディレクター（PD）>

西田 直人 株式会社東芝 特別囑託

<サブ・プログラムディレクター（サブPD）>

安井 公治 三菱電機株式会社 FAシステム事業本部 産業メカトロニクス事業部 技師長
佐々木 雅英 国立研究開発法人 情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 主幹研究員

<関係省庁>

赤羽 浩一 総務省 国際戦略局 技術政策課 研究推進室 課長補佐
西山 崇志 文部科学省 科学技術・学術政策局 研究開発基盤課 量子研究推進室 室長
松本 真太郎 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課 産業技術プロジェクト推進室 室長

<管理法人>

田島 保英 量子科学技術研究開発機構 理事
（代理出席：内堀 幸夫 イノベーションセンター センター長）

<事務局>

黒田 亮 内閣府 科学技術・イノベーション担当 官房審議官
千嶋 博 内閣府 科学技術・イノベーション担当 政策企画調査官
龍 政彦 内閣府 科学技術・イノベーション担当 上席政策調査員

4．議事（公開）

- (1) 推進委員会の設置及び運営要領について
- (2) 推進委員会の構成員とするサブ・プログラムディレクターについて
- (3) 研究開発計画案について
- (4) 研究責任者公募の方法、審査基準等について
- (5) 今後のスケジュール

5．配付資料

- 資料1 - 1 SIP「光・量子を活用した Society5.0 実現化技術」推進委員会の設置について
(別紙) 構成員名簿
- 資料1 - 2 SIP「光・量子を活用した Society5.0 実現化技術」推進委員会運営要領(案)
- 資料2 サブ・プログラムディレクターについて
- 資料3 - 1 「光・量子を活用した Society5.0 実現化技術」研究開発計画概要
- 資料3 - 2 「光・量子を活用した Society5.0 実現化技術」研究開発計画(案)机上配布
- 資料4 研究責任者公募の方法、審査基準等について

参考資料1 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の概要

参考資料2 科学技術イノベーション創造推進費の基本方針

参考資料3 平成30年度戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の実施方針

参考資料4 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)運用指針

6．議事要旨

議事に先立ち、西田PDより挨拶を行った。また、事務局(千嶋 政策企画調査官)より本日の出席者の紹介を行った。

議事の進行は議長(西田PD)による。

(1) 推進委員会の設置及び運営要領について

資料1 - 1および資料1 - 2に基づき、事務局より説明を行った。

推進委員会の運営要領については、資料1 - 2の事務局案のとおり了承された。

(2) 推進委員会の構成員とするサブ・プログラムディレクターについて

推進委員会の構成員とするサブPDについて、資料2に基づき、戦略的イノベーション創造プログラム運用指針(平成26年5月23日SIPガバニングボード決定、平成30年3月30日改正)に則り、西田PDが候補者を人選し、サブPDを置くことについて、事務局より説明がなされた。

続いて、西田PDより、レーザー加工分野を担当する安井サブPD、光・量子通信分野を担当する佐々木サブPDの紹介を行った。

(3) 研究開発計画案について

資料3-1に基づき、西田PDより説明を行った。出席者からの主な発言は以下の通り。

・文部科学省でも光・量子分野については積極的に基礎基盤研究等の取組を進めており、研究開発計画の中で説明があったQ-LEAPは、本年度から開始する事業として現在、公募審査を進めている。Q-LEAPの採択課題が決まり次第、SIPとの連携を図っていきたいと考えている。(文部科学省 西山室長)

・他のプロジェクトと連携する部分があれば、重複する部分が出てくる場合もある。重複となると様々な調整が入り、せっかくうまく進んでいた研究が止まってしまう。我々国側としては、研究開発を加速させて市場を奪還したい思いがあるが、逆に減速することにもなりかねない。そのところは我々も最大限の配慮を行っているが、緊密な連携をとらせていただき、是非PDにおかれてもその観点で、よろしく願いたい。(経済産業省 松本室長)

そこは重々承知しており、密にやらせていただいている。

せっかくなのでレーザー加工に関してコメントさせていただく。

先週、関西のレーザーコミッションのメンバーとの議論で、スマート生産とレーザー加工が頭の中で結び付かない方がレーザー関係者に結構多いことが分かった。国内ではレーザー加工はどちらかという試作用途が多いからである。ところが、海外では量産にかなり使われており、試作イコール量産なのである。本課題ではレーザー加工によってリードタイムを削減することを目標にしており、取り組み成果が国内の業界へのよいメッセージとなり、グローバルでのニーズを国内企業が獲得していく手助けになると思っているのでよろしく願います。(安井サブPD)

(4) 研究責任者公募の方法、審査基準等について

資料4に基づき、管理法人の内堀イノベーションセンター長より説明を行った。

(5) 今後のスケジュール

下記の点を事務局から説明を行った。

・明日7月12日のガバニングボードで研究開発計画が仮承認されると、7月13日から8月5日までの間、パブリックコメントの募集を行う予定。

・その後、本日の推進委員会での意見とパブリックコメントを反映した形で研究開発計画書を仕上げ、公募に向けた準備に入る。公募の日程等は決まり次第公表する。

以上